



釋迦淨代記圖會

六





吉田



釋迦御一代圖會卷之六

目錄

祇園精舍造立毘首謁摩彫木佛

天童扶謁摩令造木佛圖

世尊說木佛功德

大愛道比丘尼泥洹

流離王屠殺伊沙那國人民

流離王鑿伊沙那國人民圖

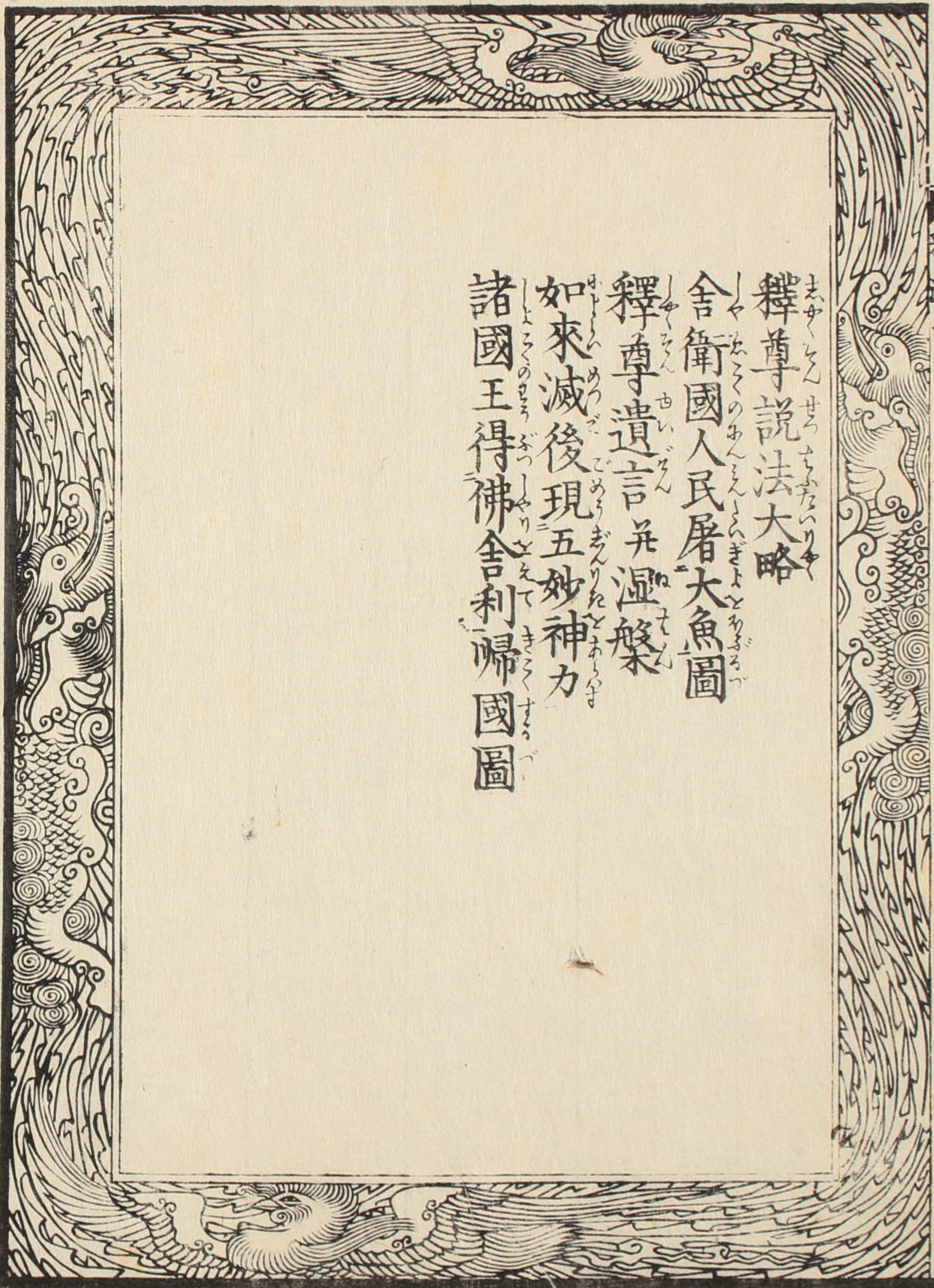
流離王雷死天火烧宮殿

雷神罰流離王主臣圖

尺四圍繪卷

目

釋尊說法大略
 舍衛國人民屠大魚圖
 釋尊遺言并濕槃
 如來滅後現五妙神力
 諸國王得佛舍利歸國圖



釋迦御一代圖會卷之六

浪華好菴堂野亭考選

祇園精舍造立毘首錫大彫木佛

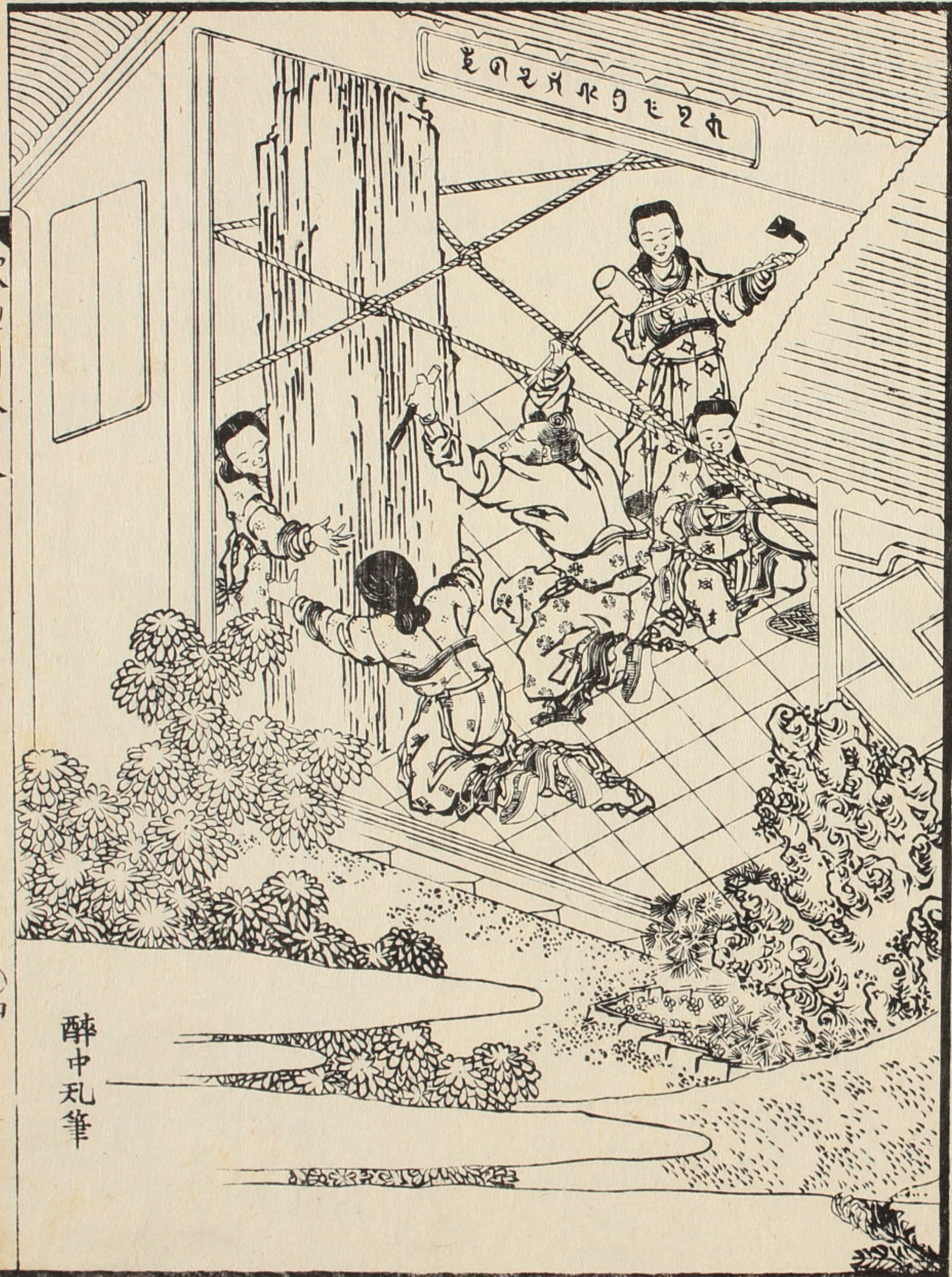
須達長者一度佛顔を拜し、舎衛國小道場を開た。世尊を招請し、
 國人小佛教を聴させ、惡を去善小皈せんと、無數の財宝を抛ち、祇陀太子
 月盖長者們の心を合せ、既小精舍を造せんとせし、六道師是を拒む。術擁小
 叟を寄し、精舍營を停止せんと巧しむ。須達大の心を困らむ。舍利弗も
 者大神通を顯し、六道師を拉ぶ。却り佛弟となり。國王卿相も佛法乃不
 可思議を信あり。長者天小歡び、地小喜び、太子月盖と俱し、二匹と厲
 しく、堂塔を造営し、境内方四里日本里數檀特山の法姓、堂真如、堂雪山
 乃發心、木覺、法性、妙覺、真如、妙法、甚以上五、甚を表し、先五院を
 建是を祇陀院、療病院、施藥院、安艱院、戲樂院と号せり。其他四十九院
 千二百房、三千乃回廊、瓦を磨れ、棟、柱を擇み、堂塔の莊嚴、七宝と鏤

錦繡を布し、兜率内院小異なり。其の眼を致し、さるるなり。斯く精舎成就し、然陀太子波斯匿王へ近臣を以て、精舎已小造営あり。願くは又大王勅使を王舎城へ、世尊を招請し、下されば、國王勅許あり。即ち勅使を王舎城善勝道場へ、せしめ、結招あり。小世尊も舎衛國小精舎成就せしを歡喜し、以て二千五百の大衆を従へ、彼國へ赴た。小二十里毎小釋亭有る、奇を設供養し、是須達が命むる所なれば、世尊深く其信心を感ず。如來路上の人民を化度し、光明を放し、舍衛國の羅狗耶城近く到り、以て國王の勅使及び須達月蓋迎なり。造営せし精舎小精舎入進せし、小世尊其地形の平博なるを、堂塔乃巍々たるを、以て御感斜方とて、然陀太子の園なれば、祇園精舎と号し、以て亦給孤独長者の用し。道場なれば、給孤独園とも号し、以て其の、其後祇陀院に於て、如く説法し、以て、波斯匿王も、后妃太子緒臣下緒官人國人等、群衆して聽

て、信心渴仰せし、更淺く、世尊亦療病院に於て、國中の病者を醫療し、絶藥院に於て、國小醫藥を絶し、以て盲人を眼を開た。聾者も能く、症ハ能く、以て、起其他種々の難病者とも、治せしめ、以て、貴賤奉て、佛法の功德廣大なるを、出家し、佛弟となるもの數あり。國王波斯匿王も、深く、信有るより、世尊祇園精舎に在り、説法し、以て、更七年、小及ぬ。帝釈天久く、如來の説法を聽き、以て、然以て、世尊を兜率内院小招請せし、以て、思召せし、世尊早知、思召し、幸しく、頃日四部の衆安逸、不耽り、勤行懈怠せざる者多し。是們が信心、屬と為昇天せん。十大弟子も、告むるを、金光と化し、第三十三天兜率内院小昇る。帝釈天、以て、后妃御歡喜限なく、種々小供養し、以て、世尊も歡喜し、以て、小法華經を説き、以て、祇園精舎小得六神通の阿羅漢とて、あつたら、如來の昇天を知り、四部の大衆、世尊の、以て、八菩薩、大の、孩た、何地往し、以て、十六弟子も、問も、取く、以て、四部の

大衆中憫甚く許たり。阿波斯匿王精舍結しむ。世に在るに、須弥山に
舍利弗不就。其故を問ふ。舍利弗曰。頂目部の大衆。身の安んずるに、勤行
懈怠。是を成ず。如来是を滅せしむ。為伴と弟子。弟子は、世に在るに、兜率天
へ昇む。帝釈の殿裡に、法華經を説く。在り國王曰。朕如来を見たり。心
小悪念を生ぜしむ。今世に遠く高天に住し。朕が意甚く。樂しむ。你
天下の名匠を擇む。如来の像を摹刻せしむ。此精舍に安置せしむ。朕如来の天より
降りしむ。木佛を世に崇め。拜せんと命しむ。舍利弗國王の湯仰深た
を感嘆し。敬し王命を領掌し。普く國中の名匠を求む。茲に清國の偏鄙に
昆首羯摩とす。者あり。天性工匠の道。小秀木を彫く。禽獸を造る。小能飛動
する程の堪能なり。深く三室に依り。平日に祇園精舍に詣り。如来の說法
を聽く。佛顔及び能認し。これ舍利弗羯摩を招き。王命を告て。如来
の法鉢を摹刻し。これ命じしむ。羯摩歡喜踊躍し。我前生に在る福縁に

依て。無上本覺の如来の尊容を彫刻し。事生前の面目。死後の本懐。何事
も是不過ん。清浄水を以て。身を清む。更七日。栴檀の良材を擇み。三室に
竈り。敢て他の工匠を交じ。其身唯一。一度彫む。三礼。精神を凝し。一
を摹刻し。羯摩が妻の室外に在り。夫が独力を以て。佛像を摹刻せん
。汝がはたし。思ひ一夜。密小物の透間より。室中。成洞。數十人の天童。在
る。羯摩が左右侍り。其力を扶く。小を妻の奇異の思をなす。斯く羯摩を
日夜重く。丈夫の佛像を彫畢し。是木佛の権とす。是小依り。舍利
弗頂達長者と儀し。祇園精舍。一字の宝殿を新し。造堂し。羯摩が造る所の
靈像を安置し。五鉢。独鉢。鈴瓶。火舎。三摩耶。尸地。磬盤。塗炉。三鉢。鏡鉢等の
佛具を備へ。供養し。且佛像成就の旨を國王へ告上。多し。波斯匿王太子。卿
桐を従へ。稽舎。臨幸あり。密殿へ昇り。尊像を拜覽し。小昆首羯摩が精
神をこり。上天童を補助し。三礼。摹刻し。更なれ。三十二相。十種



醉中凡筆

釈迦圖會集下

四



鬼首羯摩天童の
助力を得る木佛の
影七園

釈迦圖會集下

好具足一編嚴の妙相如來の容と毫髮も違支を感涙小御衣乃袖を
浴び佛足を礼拜しむ後毘首羯磨を召し佛像彫刻の功を賞し玉の
金銀珠玉を下賜り々々四部の大衆も如來の靈像を拜し涙小御衣の懈
怠を千悔し世々追慕しするも赤子の母を慕が如く各佛足を拜し我佛如來
早く下界へ降り弟子の教導を乞ふを祈る

釋尊説木佛功德

這時釈尊ハ兜率内院在り説法已畢を帝釈天ヤハ后妃別を告む
小帝釈天ハ后妃ハ余波を惜むむ抑留せむ世々辭し曰予君乃説法を
聽ま欲しむ御願を満す人爲其四部乃徒弟が懈怠を滅んが爲小昇天の
出る説法も畢徒弟們も過失を悔し予を追慕しむ且先下界へ降りて
告む小より強く留めむ更能く諸天善神緒佛菩薩垂を南天門より送
らせし其後世々南天門より一瞬乃中小祇園精舎乃寶殿の裡へ天降りむ

た四部乃大衆ハ蘇生の入遭て歡喜踊躍せし者なり世々安置せし木
佛を見む善哉と賞言合掌し三礼し玉木佛も合掌して如來を拜
し其不思議なる廣河如葉迦旃延可難乃三弟子世々對し問曰我佛
如來魚上聖位眞実乃直佛の御身と假容魚心の木佛を礼拜し更不
審小いと告せざる曰三弟子の不審理かり出さる予木佛乃形容を
さる不あり其功德の多きを拜するなりそれ三礼も三信あり所謂偽敬三
拜狂念三拜功德三拜是なり偽敬無智乃三拜狂念逆忘乃三拜功德
智見乃三拜予今此木像を拜せし功德三拜あり富留那酒喜提阿那律以
下亦問曰這木佛如何なる功德のや世々曰你们也予ハ自己直佛も三
輪を出む故不末期あり這木佛三輪なり故不末期も無量壽なり然る
佛さる事なり予法滅して功德滅する事有る事とて再び木佛對む
たる事なり予法滅して功德滅する事有る事とて再び木佛對む

善哉々々予が滅度の後四部の緒弟子盡く你不附屬と末世億々の衆生と濟
 度せよと云ふ亦緒羅漢不對曰這木像不三統あり所謂已統一統無統是なり
 それ已統と謂ハ久遠劫のむう因位無量無種の統あり云々這像此精舎小有ん
 程と功德空くくむ衆生信を求く恭敬禮拜せむ即ち功德の王となり云々坐
 禪思惟の正跡なり亦一統と謂ハ正念信敬の功德あり云々罵るも怒らむ續き
 とも怡む無念無想の功德空々塵埃なく廣取如律の功德あり將無統と
 謂ハ不統く統所信なり敢く言結の及ぶたふあむ後佛出世の血脉無佛
 中間の法王たり若後世佛像を造り供養する者必成佛得脱とぞと
 統ふふぞ十大弟子十六羅漢二千五百の大衆聽衆小國王太子后妃卿相無
 數乃國人す如来の妙統を聽安く隨喜の涙を催し異口同音南無佛
 と唱へ如来おび木佛を恭敬禮拜しをり云々
 因小曰此後優填王世をを追慕く此摩黄金を以く佛像を造る

高サ五尺是金佛の推与なり亦阿育王石像を造る高サ一丈六尺是石
 佛の推與あり

大愛道比丘尼伝

却統世の継母君嬌曇彌夫人一度嫉妬の悪念を翻て心を善道不飯
 一むひ淨飯王崩御の後如来の徒弟となり戒律を授りむひ大愛道
 比丘尼と稱せられ惟耶黎精舎とり道場を開た五百人の女僧と二六時
 中の勤行懈怠なく行ひたまふ在る年記六十二歳ふ初病小卧
 むひ多るが已不終焉の期来る瓜知覚むひ如来未期の對面せむ思召
 阿難者不就す更の子細を告せむ阿難大愛道の命終臨むとせむ
 大愛道たせむ不錫く曰大愛道乃御患病後初の御叟と思ひひ終焉
 近たあご末期如来の法顔を拜せむ願ひむりと言上と世の點首
 むひ大愛道乃御叟道心堅固勤行むひ已法眼淨を得むと早くも涙

恒の期を知り、抑予出生く七日なり。先妣摩耶夫人薨去、おひ其の后、大
愛道の慈育中、成長、幾心門を入る一切種智を得る、更偏小大愛道乃高思
み。是のふくむて、須弥山も猶高しとせむ。滄海も猶浅くも。予萬の謝息
の為、彼精舎を参り、跪法。且大往生を拜し、ももん。十大弟子と俱小惟耶
梨精舎に到り、おひ末期の御對面をなす。大愛道歡喜し、おひこと斜り、病
牀を離れ、佛足を拜し、おひ偈告す。躬と罪障深た女、身なれども、如来
の教化に依り、三宝に皈依し、戒律を授け、功なり。若集盡道眼を用く、更を得
今、往生の素懷を遂る、更は法王如来の太息なり。唯願く、終焉、おひ跪法一座を
演じ、とこ世の領掌し、おひ善哉々々。これ乾坤久しと、魚初おひ終るんを
有るくも。三更の無常と夢の如く。幻の如く。生じ、死せざる者有るを。就中女
八罪障の雲深し。貪悋痴の霧深し。永く惡趣に流轉し。真如の月を見
く難し。とくも。大愛道、勇猛精進、一念不動の功なり。依り、諸の有結を盡し

無所着を得、極樂浄土に往生し、おひ疑ひ有るを。金剛般若經を
説比喩を奉る、跪法し、おひこれ。大愛道歡喜踊躍し、おひ五百の除饑男女、
も隨喜し、洞をくも、〇く聽す。斯く、如来の跪法も畢るれ。大愛道世を
師徒乃為、おひ縁を致し、供養し、おひ其夜子、刻不端坐合掌し、禪定不、
逝去し、おひ多き女僧、今更宛轉哀哭し、余波を惜まも、汝世を種々
練制し、おひ梅檀の棺に收り、切利天正寺に送り、香油をそぎ、茶毘し、
を難陀王大愛道の遺骨を収り、浄飯王の廟の右、七宝莊嚴の浮屠を、
残る方、追福作善し、おひ多し、難有るを、脚更なり。

流離王屠殺伊婁耶國人民

茲小阿世羅國と、る國の都羅狗耶城の至優填王と、人深く世々の妙法に
皈依し、紫磨黄金の佛像を鑄し、肉身の如来おひ。朝暮礼拜供養し、
ひるるが、信心の命り、想れ、隣國舎夷國、浄飯大王乃、御弟、甘露飯王の國、

親チ、セ、世セ乃ノ法ホウ綏ヒ之シ。朕チン其キ妃ヒを得トク、後コト宮キヤウ不ハ難ナン以シテ幸シ、一イツ子シを殺コロス此コノ國クニと
シテ是コノ如ノ来キ、一イツ宗ソウ乃ノ釋シキ種シュウ中チュウ、永トシく法ホウ脉ミヤクを絶ツグ、と。國家クニタマシ安ヤシ静シズカを為ナシ、
シテ即ソレト内ウチ金キン夷イ國クニへ使シ者シヤを立タテ、親チン婚コンの義ギを望ノゾクせしむ。此時コトキ其キ露ロ飯ハン王ワウ六ロク逝セキ去キョあり、
シテ子シ匿カク安ヤシ王ワウ世セを治シられざるが、今イマ優ユ填テン王ワウの使シ者シヤを得トク、臣シ下ゲを聚アハり、此コノ義ギ如何イカと
シテ評ヒヤク議ギある、臣シ下ゲ乃ノ輩ハヒ議ギ、ハ曰イハク、阿ア世セ羅ラ國クニを原ハラ我ガ國クニ乃ノ屬ヤク國クニ也ナリ、臣シ下ゲ之ノ
シテ也ナリ、小コ王ワウ乃ノ公クニ主シを留トモ、妻メ妾シヤ不ハせん、と。甚シ、礼レイ不ハ背セ、唯タ使シ者シヤを鞭ヒチ撃ゲクて
シテ追オウ逐シク一イツ、ハ告ツク多タ小コ臣シ下ゲ中チュウ、小コ摩マ河カ男ナン、一イツ人ジン抑ヨ止ト、曰イハク、優ユ填テン王ワウの望ノゾク礼レイ不ハ違ヒ、
シテとスも、其ソノ木キ心シン我ガ國クニを侮ウヘてるの故ユヘ、ハ三サン室シツ不ハ飯ハン後コト、余オノ、釋シキ種シュウの胤イを得トクん
シテと欲ホウをもたれ、強カチ、惡アクむむ、ハ義ギ不ハあむ、ハ然シカニ、ハ使シ者シヤを辱シ、ハ追オウ逐シク、
シテ好コウ意イ却ゲツ、惡アク心シンと變ヘン、怒ドク、激ゲツ、を發ハツ、ハ兵ヘイ馬マ起キ、攻クウ、我ガ國クニの君キミ臣シ上シヤウ下ゲ如ノ、
シテ来キ乃ノ戒ゲイ律リツを保ホ、ハ殺コロス生シヤウを禁キン、ハ小コ虫チュウ、ハ殺コロス、ハ況ケイ軍ケン、ハ思シ、ハ小コ臣シ愚ウ案アンを廻クハ、ハ小コ臣シ一イツ人ジンの處ツド女メあり、頗ナ、端ハシ正テイ美ミ見ミ、
シテ小コ臣シ愚ウ案アンを廻クハ、ハ小コ臣シ一イツ人ジンの處ツド女メあり、頗ナ、端ハシ正テイ美ミ見ミ、

れを假カ、是シを王ワウ女メと号ク、ハ優ユ填テン王ワウ不ハ贈オウ、渠キ、真マコト乃ノ公クニ主シと思シ、怡イ、ハ永トシ
シテく、竟ケイを侵イン、ハと、ハ匿カク、ハ王ワウ此コノ議ギ、ハと、ハ意イ、ハ摩マ河カ男ナンが處ツド女メ
シテ小コ羅ラ綾レイ乃ノ衣イを著キ、ハ七シツ室シツの瑤ヨウ瑤ヨウを頂トウ、ハ王ワウ女メと号ク、ハ羣グン車シャ不ハ乘セ、ハ阿ア
シテ世セ羅ラ國クニの使シ者シヤ、ハ、ハ使シ者シヤ大ダイ悦エツ、ハ息ソクを謝セ、ハ舍シヤ夷イ國クニを立タテ、ハ回ヘイ
シテり、ハ斯スと報ホウす、優ユ填テン王ワウ其キ妃ヒを言コト、ハ衣イ冠カン善ゼン美ミ、ハ上シヤウ面メン見ミ花ハ乃ノ如ノ、ハ細シヤウ腰ヤウ柳リウ
シテの如ノ、ハなれ、ハ大ダイ悦エツ、ハ真マコト乃ノ王ワウ女メと想シ、ハ新シン宮キヤウ殿テンを建タテ、ハ任ニン、ハ電デン愛アイ淺セン
シテと、ハ遂スヱ、ハ一イツ男ナン子シを殺コロス、ハ其ソノ名ナを流リウ離リ、ハ太子テイシと号ク、ハ此コノ太タイ子シ八ハチ才サイ、ハ不ハ、ハ頭トウ、ハ優ユ填テン王ワウ
シテ流リウ離リ、ハ太子テイシ對タイ、ハ你ニ、ハ八ハチ才サイ不ハ及キ、ハ舍シヤ夷イ國クニ射セツ、ハ能ネ、ハ彼ヒ國クニ不ハ到トウ、ハ射セツ法ホフ
シテを学ガク、ハと、ハ命メイ、ハと、ハ太子テイシ領リヤウ掌シヤウ、ハ好コウ苦ク梵パン志シ、ハと、ハ者シヤ、ハ、ハ數スウ、ハ十シユ乃ノ近キン臣シと
シテ後コト、ハ舍シヤ夷イ國クニ不ハ到トウ、ハ摩マ河カ男ナンが家カ、ハ往ヤウ、ハ又マタ、ハ王ワウ乃ノ命メイを告ツク、ハ射セツを学ガク、ハ人ジン、ハ望ノゾク、ハ小コ
シテ摩マ河カ男ナン我ガ孫ソンの事ジ、ハ一イツ儀ギ、ハ及キ、ハ、ハ、ハ我ガ家カ、ハ、ハ日ニチ、ハ毎マイ、ハ、ハ教ケウ場バウへ出デ
シテ。緒キョ釋シキ種シュウの童チュウ子シと、ハ、ハ、ハ射セツ法ホフを学ガク、ハ、ハ、ハ緒キョ童チュウ子シ、ハ、ハ離リ、ハ太子テイシを、ハ廣クワウ河カ

男が孫なりと知し侮り怪し。非礼の事多し。太子推心小憤きども
 我ハ他國の者なれを斯きもん。胸を抑射法を学たれ。或時
 流離太子好若梵士們と道遙す。新小建一講堂有れを何心なく梵士們と内
 小令んる。堂上小師子座を殺け花を拂し香を焼く。最中清浄なれ。太子大
 の小怡ハ梵士以下とひくく師子座小より遊ハ戯れ居たり。此所諸釈種乃
 人々入来り。是をるより太子怒り。此堂如来を請供養し。人爲小新小
 建させ講堂中。素姓車ハ摩訶男が孫を遊しむる所なり。早く去
 よ。杖を以流離太子好若梵士們を散々小擲。堂外追出れ。太子
 多重心小朽惜。心中心小想道我及乃讓を受く。王とたを誓す。此耻辱を雪
 ぐ。拳を握り牙を咬路上とく。好若梵志小謂て曰我成長く國王となら
 む。舍夷國を伐夷。今日乃耻辱を雪ん。想り我。後年忘る。復わ。你的心
 小覺て我小告よと命。諸ハ河男が舍小回リ別を告く國へ皈られ。其後年

月推移り。優填王逝去あり。流離太子讓を受流離王と稱し。一國乃政更を
 執行ハ女色小耽り。驕奢小荒く。昔日乃恨を亡心失く。好若梵士耳
 旧仇を忘き。或時流離王小告曰君昔舍夷國乃講堂小より。多々耻辱
 をくむり。小を忘し。問小流離王勅。色を愛し。我実小往日の
 忝辱を忘し。軍馬を起し。舍夷國乃人民を。入小残を殺し。盡ん。火急小
 三十萬乃兵馬を發し。國を去る。舍夷國へ進伐。佛弟阿難。是を受て。又
 母乃國の大事なれ。太子小強。世々小見告。阿世羅國乃流離王。今猛軍
 を發し。舍夷國を伐ん。彼國人。如来の戒律を授り。殺生を禁む。此
 兵刃を把。敵を拒防。能く。素り。如来の親戚乃國なり。可憐威神力
 を以。大厄難を救ひ。世々。舍夷國王。緒釋種因位の宿業。り
 依。流離王の爲。小屠殺をくむ。是を奈何と。只其災害を蒙。世
 宿因を果。敢。阿難佛鏡を。其救ひ。を悟と

いづも猶族滅せしむるをんふ忍む日連小救を乞日連是を諾し釋種五
千人を神通力あり鉄鉢の裡小入虚空小上り隠し置きたり斯く流離王
三十三萬の兵馬を領し舎夷國へ押寄せを匿蒙王太子の孩た國中の兵卒
を聚め十萬人を城外小半敵を防む然も此輩皆三室小皈依戒律を
授りしを敵を殺と更を好む悉く鏃を抜唯怖退くをえんと構ゆる流
離王ハ猛烈の惡王なれ自己衆を屬し敵陣近く押寄る待殺ゆる釋種
乃勢弓弦をたぐ散る射る素り舎夷國ハ射藝萬國小勝れ數百歩の外
を射るも流離王ハ其箭前を怖く進み得ず已小引退んと甘小好若梵士
曳止し練く曰敵勢弓勢屬といふも皆釈迦乃戒律を受く人命を殺害する
更能く唯押寄る一人ハ残さず屠殺しむと勸む流離王是小機を整し
聚軍を下知く攻進む小実ハ梵士ヲ推察乃如敵兩乃如箭射る悉
く鏃を死箭なれ味方一人ハ死傷の者なり是ハ依く阿世羅國乃勢大ハ小

心を安んぬ鉦鼓を鳴り殺到するふ舎夷國の軍散る陣隊を破れ皆城
中へ逃遁る茲小摩訶男ハ我が孫流離王今國家小冠する恥水中小身
汝投て死なれ其一族ハ時小自殺し流離王是を去る三軍小令を傳
城中乃人民乃中摩訶男一家の者を殺戮する更勿れ其余の者ハ老幼を嫌む
盡く屠殺せ但舎夷國ハ美婦多し容色勝る者を捉て我小得き者ハ
恩賞を小よむと觸る無二無三小城門を攻破り數十頭乃惡象と先
小驅る殺倒する程小國王乃卿相兵卒數を盡し亡失り流離王ハ
味方の勝利を令く城中小入摩訶男を尋る小更小刀を亂軍乃中や討れん
と軍吏を令く普く尋求る小池水の底より死骸を探り出流離王の前
へ早到り斯と告流離王ハ河男が死相を乞甚く憐れ祖又我小此國小冠と
る憤て死するると頻小慚愧し怨怒小勝る所へ軍吏五百人の宮女
を生捕り曳來り王小献る王這宮女を乞る小比無双乃國色なれ忽ち憂



流離王の暴悪
舎夷國の人民を
盡すに因

を忘る歡喜。繩を解し安撫し曰。你们憂ひ怖る。更なれ。我が後宮小住せしめ。娛樂を極めしむ。と。中々の容兒勝れ。宮女を近く招た。身を接す。淫せんと。宮女大に怒り。汝は是卑賤の者。乃孫何ぞ貴姓。乃船を辱んと。と。やと。散々罵れ。流離王勃然と。大に憤激。即時小軍吏命。其女の手足を断堀乃裡へ捨せ。残りの宮女。對ひ你们。我が意。順んと。者。錦衣王。食飽む。背く者。彼女を以て例とせん。との。人。衆女を。維。大惡無道の匹夫。と。情通と。なれ。殺さんと。欲せ。你。が。意。よ。せ。よ。と。死を。怕。と。惡言。と。流離王躍り上。大に勃怒。或。面乃皮を剥。或。腹を。殺。た。と。五百の宮女。人。殘。と。屠殺。堀の埋草。と。なり。多。言。結。絶。暴惡。なり。流離王。思の。俗。舍夷國の人民を殺。盡。昔日の仇を復。と。軍を。収。阿世羅國。を。陣。因連。者。世。小。錫。曰。阿難。先。如來。小。舍夷國。乃。災。昔。を。救。ひ。願。も。如來。因。位。乃。宿業。奈何。も。と。救。ひ。阿難。猶。親戚の。災。と。

く。人。更。を。憂。ひ。弟。子。小。救。ひ。を。求。む。僅。小。五。千。人。の。釋。種。を。鉄。鉢。乃。裡。小。隱。助。余。と。言。上。小。世。微。笑。小。你。神。通。を。得。と。宿業。を。救。と。能。ハ。ト。隱。置。鉄。鉢。を。ち。鉢。中。の。人。を。見。と。曰。小。因。連。即。時。小。神。通。を。ち。雲。上。小。隱。せ。鉄。鉢。を。ち。五。千。の。釈。種。悉。く。餓。死。と。因。連。大。小。死。せ。小。其。故。成。を。問。と。

流離王雷死天火烧宮殿

其時釈尊因連。緒弟子。曰。往古。此舍夷國。大饑饉。有。二。舟。乃。金。小。一。舟。の。米。を。易。ぬ。是。小。依。人。民。木。皮。草。根。を。食。く。飢。を。凌。ぐ。小。果。木。皮。草。根。を。由。喰。盡。く。絶。れ。大。池。乃。水。を。く。數。萬。の。魚。を。捉。く。是。を。食。と。唯。二。人。小。兒。あ。つ。魚。を。喰。更。を。欲。せ。却。數。千。の。魚。を。皆。小。拾。隱。と。人。小。食。せ。り。相。儀。後。放。ち。活。え。更。を。ち。日。を。徑。く。苦。を。と。り。小。魚。を。見。れ。悉。く。死。せ。り。亦。水。中。小。二。尾。の。大。魚。あり。一。尾。を。拘。瓊。と。号。二。尾。を。多。舌。と。号。二。魚。相。結。

て曰我門ハ是池中ノ水族敢ク這國ノ人民小害を加ヘド然ルベキ城中ノ人民安カ
我が種類を盡シ喰。又恨カクモ。生を易ルモ此仇を復サズ在ガヤと結
畢。二大魚也。遂小捉噉。彼魚を捉噉。人民ハ今舎夷國城中ノ君巨是之
拘瓊與今乃流離王ナリ。君舌與今ノ好苦梵士ナリ。然。彼二人ノ小兒
之阿難月連ナリ。魚を助命トテ却。魚を殺セ。宿業小依テ。今五千ノ人を
鉢中小隠。餓死セ。皆是因位ノ去。所ナレ。神通カ。由。是
更能ハ。説。阿難月連。其餘ノ緒羅漢。因果應報ノ端的。我歎息
亦。曰。今緒羅種前報小依。流離王。乃。為小屠殺。流離王ハ。惡逆殘
忍。猶存命。此後ノ更ハ。如何ナリ。問。曰。緒羅種前報小依。流離
が。為小屠殺。我。戒行を守。敵ノ人命。と傷。其功。小依。皆天上。小生
。限。樂を受。流離王。因位ノ仇。復。三。小依。暴惡。又
甚。七日ノ後。大厄難。遭。衆臣。俱。阿鼻地獄。墮。落。と。統

。小。緒羅漢。感慨。佛統。斯。如。流離王。身。乃。上。危。カ。思
。然。小。此。更。維。流離王。傳。大。小。教。小。懊。惱。小。寢。食。を
安。人。好。苦。梵。士。練。曰。大王。何。婦。女子。ノ。如。秋。迦。ノ。妄。言。を。信。今。隣
國。大王。乃。猛。威。小。怕。小。竟。を。侵。者。ナ。國人。大王。ノ。善。政。小。伏。業。を。樂。リ。何
小。依。テ。災。告。を生。小。心。を。放。歡。樂。小。告。小。流離王。亦。梵。士。が。碎
小。惑。小。恐。懼。ノ。念。を。忘。美。女。を。近。け。淫。樂。酒。肉。を。貪。娛。樂。小。猶
飽。足。也。阿。脂。羅。河。と。川。辺。小。往。美。女。を。左。右。小。緒。臣。下。を。聚。酒。宴。を。催。歡
樂。小。在。多。小。俄。然。不。時。小。黑。雲。覆。暴。風。大。雨。降。出。雷。鳴。天。地。を。覆
を。わ。り。を。れ。流。離。王。小。緒。人。大。小。周。障。狼。狽。我。先。小。逃。小。四。方。唯
冥。々。々。尺。尺。乃。向。小。電。光。透。間。閃。々。凄。々。小。小。絆。小。衆。人
地。上。小。倒。小。手。足。を。張。小。怕。恐。小。百。千。ノ。雷。落。小。流。離。王。好。苦。梵。士。を。先。小
隨。後。小。男。女。一。人。も。残。小。微。塵。小。碎。小。死。小。加。之。日。時。小。羅。狗。耶。城。也。天。火

降く宮殿諸房一掃焼亡。宮女姝女緒官人老幼男女泣叫。我先道此避令
とれ。猛火八方充満。れど道る小路。焰焦煙小。形勢叫喚大叫。喚乃
若小異をく。城中の人民一人も残ど死。恐ろし。由疎かり。余國の緒人
近た。日月視遠た。傳せ。佛言の違。感。愈悪を捨善を修。三寶
心然を頌け。

釋尊統法大略

儲中釈伽牟尼世尊。一切衆生救度の為。普く天下を廻り。三世因果の理を示し
統法。少更前後。四十九年。統法。經八華嚴阿含。方等。般若。法華。涅槃。と号
五時六類の御法なり。初頓華嚴經。八十所九會の統法なり。第一。六。六。錫國
阿蘭若會。二。六。品を統法。二。一。小。曰。世主妙嚴品。三。小。曰。如來現相品。三。小。曰。普賢三
昧品。四。小。曰。世界成就品。五。小。曰。華藏世界品。六。小。曰。毘盧遮那品。是なり。第二。小。六
。錫國。熙連。河曲。普光明殿會。二。六。品を統法。二。一。小。曰。如來名号品。二。小。曰。品。三。小。曰。品。四。小。曰。品。五。小。曰。品。六。小。曰。品。

品三。小。曰。光明覺品。四。小。曰。菩薩問明品。五。小。曰。淨行品。六。小。曰。賢首品。七。小。曰。第三。小。六
切利天會。二。六。品を統十住の御法を示し。二。一。小。曰。昇須彌頂品。二。小。曰。須彌
頂讚歎品。二。小。曰。十住品。四。小。曰。梵行品。五。小。曰。慈心功德品。六。小。曰。統法品。七。小。曰。第四
小。六。耶天會。二。四。品を統十行の御法を示し。二。一。小。曰。昇六耶品。二。小。曰。夜。六。讚偈
品。三。小。曰。十行品。四。小。曰。無盡品。五。小。曰。第五。小。六。耶天會。二。三。品を統十回向の法
を教へ。二。一。小。曰。昇兜率品。二。小。曰。昇兜率讚歎品。三。小。曰。十回向品。七。小。曰。第六
小。六。他化天會。二。十。地品を統。二。一。小。曰。重會普光明殿。二。十。品を統
十地勝進の行を教へ。二。一。小。曰。十定品。二。小。曰。十通品。三。小。曰。十息品。四。小。曰。阿僧祇
品。五。小。曰。壽量品。六。小。曰。菩薩住所品。七。小。曰。不思議法品。八。小。曰。相海品。九。小。曰
隨相光明功德品。十。小。曰。普賢行品。十一。小。曰。如來出現品。十二。小。曰。第八。小。三。會普光
明殿。二。一。品を統。二。一。小。曰。離世間品。是なり。第九。小。六。逝。及。林。會。二。一。入。法。界。品。二
統。二。一。小。曰。如來自己阿僧祇品。隨相光明功德品を統。二。一。小。曰。餘品。金剛幢



金夷國の人民
 飢饉不困
 大魚と屠殺す
 圖

金剛藏法會功德林八乃菩薩小加彼一統もむひたる。其長時乃華
嚴及未來際の華嚴入法界乃華嚴後分乃花嚴等ハ三加葉舍利弗富
樓耶目連優樓賓羅亦小統せむひたる。阿含經といふ雜阿含長阿含增一
阿含中阿含是を四阿含と号す。戒定惠の三学を十二年が間小統むり方等
經と謂ハ十六年の説法りり所謂方等要惠方等大集方等頂王方等无
想方等大雲方等佛藏方等陀羅尼其余稜伽稜嚴思益觀佛三昧等
是なり。般若經と謂ハ四所十六會の説法りり。第七會まゝハ靈就山小て統む
へり所謂大品般若放光般若光續般若小品般若道行般若大明度般若天
王般若是なり。第八會より九會まゝハ給孤独苑中て統むり。文殊問般若
金剛般若是なり。第十會ハ他化天宮中て一卷般若を統むり。第十一會より弟
十四會まゝハ再ハ給孤独園中て戒勤忍三種乃御法を統むり。第十五會
又靈就山小て禪定をのめ。第十六會ハ竹林精舎中て智惠を統むり。其余約

耶凡國中て波陀和菩薩の爲ハ苦行般若を統むり。其後二十余年を徑り
仁王般若を統むり。彼提婆が惑ハセテ阿闍世佛陀鹿仙龍種八乃太子を統
諭むり。般若乃功方なり。法華經と謂ハ二所會の御經なり。其題目ニ
八品第一ハ靈就山中て序品と方便品譬喻品信解品藥草喻品受師
品を統むり。第二ハ虚空會中て十品を統むり。密塔品提婆品勸持品安樂
行品涌出品壽量品分別功德品隨喜功德品法師功德品常不輕菩薩品
如來神方品等なり。亦靈就山會中て七品を統むり。囑累品藥王品本
事品普賢菩薩勸發品以上二十八品乃妙經なり。六菩薩摩訶薩緒天
緒佛如來下羅刹龍王魔梵刹女對て統法あり。涅槃經ハ統中世
自己入滅の期を知覺しむり。物ヲ那城跋提河の辺リ汝羅維雙林小於て四部乃
大衆乃爲ハ二十五品を統むり。序品純陀品哀歎品の三品ハ涅槃絶を統
外道小乘乃三種を破り。正法の三種を示しむり。長壽品金剛身品名字功

德品相品四依品邪正品四諦品四倒品如來性品文字品鳥喩品月喩品菩薩品大衆所向品此十四品大涅槃の義を述む現病品聖行品梵行品嬰兒行品德王品乃五品大涅槃の行を説む師子吼品迦葉品陳如品の三品大涅槃の勝用を説一切衆生悉有佛性如來常住無有變易と教凡有心者決定當得阿耨菩提と示す難有るも御更なり

釋尊遺言并涅槃

世尊室算七十七歳の時靈鷲山會よ於て十大弟子十六羅漢五百羅漢其餘三千三百余人の大衆を聚く仰るも諸羅漢の修行の跡成就て撰擇とがれ道理あり皆集會とをり各領掌修行の座位を正し座具をく坐をし功徳三昧の座釋をなすと其時世尊獅子の高座小上をせむ金婆羅華とり花を左の御手お持せむと曰今日の説法ハ功徳附屬の大事なりこれ一葉の形も四州を積一粒の芥子も四天下を包む

理リ此花も三見あり一は種々説法三昧功徳摩訶行二は真如無為説法寂滅摩訶行三は真如舍利非寂滅摩訶行功徳附屬と示す也金婆羅華を捧ぎ小緒羅漢いふ其意を悟得と座禪工夫と默然と小摩訶迦葉一人破顔微笑し座を起坐具を絞りと虚空を觀と在るもふと釋尊歡喜と曰吾も正法眼藏涅槃妙心實相無相微妙法門なり不立文字教外別傳なり摩訶行乃功徳迦葉も附屬と金婆羅華正覺下化衆生是かりとも自己迦葉の手へ渡させむと偈と迦葉を滅後の如來と号せり世尊曰以後迦葉ハ鷄足山に住し法を修と奪舍利弗阿難富那羅睺羅之祇園精舎不在法を修し月連阿難ハ摩訶耶山と象頭山に住し修法と示す其後又二年立世も跋提河乃辺方の空羅羅集林に説法をせむと二月下旬小到り忽ち背痛の病を得む法狀も臥むれ阿羅漢連大の不説た諸國の名醫を需く治療しをもん強だ惑をせり制止す



暴悪と罪
天雷流離王
王宮と焼君臣と
撃殺十箇



已不滅度の時至りて敢て醫藥の及ぶをわくと予が入滅の後ハ摩何迦葉を
師と四部の大衆を舍利弗目連富樓那可難阿難須菩提羅睺羅乃七賢
弟不就。無為成道を修せんと遺言。一。諸羅漢諸大衆是を空く地
什。住想。是ハ奈何御更也。弟子等ハ。真正等覺乃與首を得
坐。我如来忽不捨。濕槃小入の弟子們也大洋の漂。楫を折闇夜。遂
燈を消。如維を頼て。彼岸到り。んん。你に願く。我佛如来憐愍を無
猶一切を徑む。弟子們を教導す。せんと願す。世。御手を揮む。愚や
你達天壽素り定數あり何乃方便。是を延。更を得。ん。予常願の如く發
心修行。正覺成道。も更を得。今將。永く生老病死乃四苦を離る。乃期到
ま。歡喜何更。是。不知。其後。ハ。乃。練。も。一言。也。答。な
し。ん。御身より金色の光明を放ち。む。其光大千世界。亦。諸所
分れ。阿羅漢ハ。乃。上梵天帝釈四天王無數の夫部諸善神中ハ

百國乃王緒仙緒道師下。林羅法王萬眷族。八大龍王恒汝の水族。乃。追。の
光明を。大苦惱を生。是將。釋迦牟尼佛滅度を。執。瑞態。多。と
怨。號。勝。能。如。來。の。涅。槃。の。相。好。を。拜。も。ん。と。悉。く。双。林
集會ある。世尊。ハ。沙。婆。羅。雙。樹。乃。下。を。法。乃。林。乃。上。頭。北。面。西。右。脇。卧。小。卧。且。緒
行無常の機を現。鶴乃林。乃。小。頼。を。か。ん。え。む。乃。萬。億。の。僧。尼。月。中。昏
心滿。是。生。滅。法。乃。春。乃。花。今。や。常。乃。風。乃。秀。乃。紅。乃。洞。乃。衣。の。袖。を。絞。り。眼。情
牛馬。大。象。獅。子。虎。豹。乃。下。乃。緒。歟。鶴。鳥。鳧。鳥。孔。雀。燕。雀。鴛。鴦。乃。下。乃。飛。禽。其
他。羽。虫。化。虫。濕。虫。乃。り。乃。雙。林。乃。辺。乃。聚。頭。を。依。れ。羽。を。縮。め。如。來。乃。入。滅。を。怨
も。ぬ。茲。乃。日。記。悼。乃。た。ハ。切。利。天。喜。見。城。乃。任。乃。帝。釈。天。乃。后。妃。ハ。先。乃。統
如。正。前。身。佛。母。摩。耶。夫。人。乃。こ。こ。乃。世。乃。乃。忽。ち。五。箇。の。惡。夢。を。見
乃。其。乃。須。彌。山。崩。乃。西。海。水。渴。其。乃。羅。刹。奔。走。乃。人。間。乃。眼。中。乃。入。其。乃
乃。后。妃。自。已。寶。冠。を。失。ひ。身。跡。光。明。消。其。乃。密。珠。幢。倒。乃。如。意。珠。を。失。ひ。其。乃

小獅子来り身軀を咬疼痛刀を割如后妃此夢を覚て該た覚むひ熟
思惟しむひるる自巳因位の昔淨飯王乃后妃不備り奇夢を覚て如来を懐
妊すお想ひくゝぬきて這五箇乃夢いと不吉かり疑り八叙迦牟尼世尊滅
度を執り凶兆不あはるるもあやむいふ不思議や頭上乃花萎二小腋下
より汗出三小頂中の光滅一四小兩眼數瞬た五小本座小着申懶一以上を天人の右
妃倍致た所不飛行童子来り帝釈天如来の入滅を拜せんて安羅双林へ
降むりと報じ后妃是を皮むひんがごと五惡夢五表乃も世果とて如来滅
度乃凶兆たりりとも怨哀不勝む阿絶躰地一五小宮女們大不發た百般小抱
し呼活なるる漸小甦りむひ御泪雨の如亦絶入る歎たむひるるが耽しと意
ばれむ天宮小秘とる起死回生の不老藥をとり出錦乃裏小収りて携むひ數
子の宮女を隨へ八葉の輦車小乗り飛行童子小前後を傍せ淨雲不送とれ
沙弥維雙林をきて天降りむ所小白鳩孔雀鸚鵡舍利白鶴鷲鳥鸞迦凌頻伽

以上七種の鳥數萬羽飛来り羽風を發りて后妃の御車を吹上吹戻してさし
雙林へ降りしむも横障の雲を覆ひ天の通路も塞りしむ后妃是ハ浅す
や再度如来小見するも能さりるるも輦車の裡小伏沈歎たむひるる
が余の更の本意なるる起死回生の靈藥を御手小採甘き是は如来の御
手小届けりとも欲我今至身心顛直至如来不老藥と唱へむひ雙林を臨ん
ぐ投下しむも這仙藥飛鳥の如く汝安羅双林の如来乃法林きて起降なるか
世より御入滅決定せる事小やさるるの靈丹霍林樹の梢小停りて如来乃
御手小届けりとも力をた時小雙林小三十世界の緒佛薩垂梵天帝釋緒
天將百國乃緒王緒仙緒道師阿修羅迦累羅八大龍王小の道如来涅槃
の相好を拜するも面門より光明を放ち大千世界を照し其光乃裡小無
量の化佛出現しむひ種々乃妙花を降し妓樂を奏し西方淨土無量壽如来
由紫雲小乘りて来降りしむ極樂界へ引接しむ小体相心も釣も及むる感涙

を流し合掌せしむる者なり時二月十五日寅乃上刺大恩教主釋牟尼女
佛生滅之已寂滅為樂乃儀を示し遂に寂光の都へ皈らせむに多ふを無量無
部無量の人類會集諸虫のりするすく声を放て泣慈とるハ実理りしと思はる
釋尊滅後現五女神力

諸羅漢達ハ斯く在果なる小あふれむ如來の尊體を守護し踏提河を渡
天冠寺小入より浄香湯を以て佛鉢を沐浴しより百端の長疊を以て是
を纏ひ七宝の金棺小攸り香油を灌ぎ稱檀の榔小納其上を亦鉄榔小入郊外
小送りも其入々小入聞弟乃阿難尊者智惠弟乃舍利弗尊者解空弟
一乃須菩提尊者説法弟一乃富樓那尊者神通弟一乃目連尊者論議弟
一乃迦旃延尊者天眼弟一乃阿耶律尊者信敬弟一乃可難尊者密行弟一
乃羅睺羅頭陀弟一乃河迦葉弟一此入々法棺を昇り其優婆塞賓頭盧伽
迦伐蹉跋致摩墮圍換頻陀綈娑羅跋陀羅迦里伽半托迦那伽遲那因錫陀

伐圍羅弗多羅伐博迦伐那波斯阿氏注茶半托迦羅漢と云此入々金棺小先
之く金鼓法續しより是乃の羅漢ハ萬億の御弟子の中小もとりけ修行乃
功をなげ各六通を得て蔭の身小添如如來小隨從しをれ下不歎た乃色
深く入えり諸を如來由此入々を解脫の菩薩と稱しむひたり其次小五百羅
漢各名を玉旛宝花華鬘味燈明及び種々の佛具をとり金棺の背小隨り
其次小比丘比丘尼優婆塞優婆夷四部乃大衆送りなり其他難陀王を先
百國乃緒王民間の老若す愁歎の涙を垂て郊外小充滿せり斯く緒羅漢之
香薪を積り金棺を居明法之意心を改め華嚴阿含方等般若法華涅槃
等の妙教を續編し三昧座禪觀察加行真言勤行し淨火を香薪小け
茶毘しより何なる更小や敢て燈殺らば煙小揚らざれ人を是ハ如何とく
香薪を積り香油を灌ぎ火をひなれども愈火殺され大け小焚た華法佛意
小切さる小やと各高儀ある小阿那律女時思惟して嚙と手を拍く曰香薪の

燃もえるハ摩ま河が迦ぢ葉えを待まちたを多おほく。彼かの師し兄にい波な婆は國こく鷄け足そく山さん乃なり室むろ小こ鼈かめままり。素もとり六ろく
神通じんつうを得え我われ佛ぶつ如にょ來らいままり滅めつ後ごの如にょ來らいと仰おほぐぞとと曰いわくはは大だい德とくなれを疾はやより如にょ
來らいの湿ぬ槃ばんをしるる今いま亦また至いたるる来きたるる如何いかなるる也なり。各おの女にょ時とき座ざ禪ぜん觀くわん察さつ
一いつく待まち玉たまと告つぐれを衆しゆをしるる意い三さん昧まい加か行ぎやうく佛ぶつ棺くわんをしるる所ところ小こ果くわと
大だい迦ぢ葉え五ご百ひやく人の徒と弟ていを引ひく天てん冠くわん寺じの郊きやう外がい小こ來らい著ちやくくくをしるる大だい衆しゆ是ぜをしるる今いま
更さら如にょ來らいの御ご在ざい世せいを思おも出で。再また以もつ慈じ歎たんの泪なみだ小こ衣えの袖そでをしるる絞しぼりる。大だい迦ぢ葉え其その体たいをしるる
。噫あ息いき疎そや如にょ來らい已い小こ滅めつ度どを執しやくす人ひと々々何なにを怨うらむると天てんを仰おほぐ大だい小こ大だいとと
とと三さん度ど小こ亦また大だい衆しゆ眞しんを覺かくくく惘わう果くわ是ぜハハ如何いか如にょ來らい小こ別べつちちりり慈じ歎たんの余あまりり幾いく
狂きやうせせらら亦またハ天てん魔ま破ぱ旬じゆんの魅ま々々互たがひ面めんを見み合あひひ更さら云い所ところをしるる阿あ難なん尊そん
者もの堪かんん迦ぢ葉え小こ對たい師し兄にいハ如にょ來らい出で山さん乃なり始はじめり。二ふた弟ていと俱とも小こ徒と弟ていととなりり玉たま明めい織し
拔は群ぐんをしるる今いま將まさ小こ法ぽう王わう如にょ來らい入い滅めつしし我われがが們らもも四よ部ぶのの大だい衆しゆ乃なり慈じ歎たん之し
以もつを更さらなり。天てん上じやうの緒しゆ神しん緒しゆ菩ぼ薩さつ地ぢ下げの龍りゆう王わう水すい族しやくより。恥ひが情じやうの禽きん歎たん緒しゆ虫むしより

怨うらみ歎たんく如にょ來らいの別べつを惜おぼむる小こ師し兄にいハ如にょ來らいの臨りん終しゆの時とき亦また來らい臨りんなり。違ちがひ後ごはは
徐ゆるく今いま茲こゝ來きたり。剩なほ我われがが怨うらみ歎たんを笑わらひひむる不ふ審しんの御ご也なりなりり怒ど氣き
を會あひひ向むかへへ迦ぢ葉え色しきを平へい答たくく曰いわく亦また愚ぐ乃なり向むかへへ我われがが三さん度ど笑わらひひ可か笑わらひひ也なり
と嬉うれた也なりと面めん白はくた也なりと三さんの笑わらひひ也なり也なり阿あ難なん益えき怒どく曰いわく是ぜハハ阿あ難なん也なり
小こ之し先せん可か笑わらひひ也なり何なにが可か笑わらひひ也なり迦ぢ葉え曰いわく和わ僧そうをしるる緒しゆ羅ら漢わん如にょ來らい小こ隨ずい
ひ事ことハ四よ十九じゅう年ねん乃なり奴なん統とうを聽きけり。今いま更さら如にょ來らいの入い滅めつを有ありりた也なりのの小こ法ぽうの
魂たまを失うひひ慈じ歎たんあるるハ將まさ小こ阿あ羅ら漢わんの位ゐを放はなする俗ぞく射しゃ凡ぼん夫ふ小こ異いなりり其その可か笑わらひひ也なり
小こ笑わらひひなり。二ふた小こ素そ我われがが師し釋しやく尊そんハ生せい々々乃なり功こう德とく積じやくりり。兜と牟む天てん小こ生せい下げハハ善ぜん
慧え菩ぼ薩さつと稱しやうなりり。一いつ切せつ緒しゆ天てん王わうの尊そん信しん尊そん。上じやう限げん小こ在ざいるる法ぽうを統とうむる一いつ度ど
大だい慈じ願げんを發はつする一いつ下げ限げんの一切いつ衆しゆ生せい無む量りやうの罪ざいを造つくりり永えいくく惡あく趣しゆ小こ沈ちん淪りんとといい
を憐あはれれ。おれ是これを滌しやく度どせんと。一いつ生せい補ほ處ちよを去さくく淨じやう飯はん王わうの后ごう妃ひ摩ま耶や夫ふ人じんを
因いん位ゐ乃なり結けつ縁えん有ありり上じやう彼か夫ふ人じん乃なり命めい數すう盡じんする。其その年ねん其その月げつ小こ命めい終しゆうあるるをしるる知ち覺かくする

大迦葉五百人の徒弟を引く天冠寺の郊外小來著くを大衆是をコク今

夢不托ゆめをたす其胎内そのたうない宿り。四月八日しがつはつにち降誕かうたんあり七日しちにちの後のち小夫人せうふじんと號なづじむり是素
 リ天數てんすう多おほく如來降誕にがひのくだんの故ゆゑあはれむ。たゞ如來胎中にがひのたうちゆうを借かりむとて。逝去せんきよしむ
 を定命ぢやうめいし。然しかるる愚昧肉眼ぐまいにくがん乃凡夫なんぷの如來の誕生たうじんをあ不ふ覺かくトあやとササ入いる
 齒牙しはを多おほふ不足ふそく僻更へくまへなり。其そのととまれまれ我佛如來がふつにがひん御ご發願はつがんの如ごと下界げがい小出
 現げんししく。廣大無邊くわうだいむへんの法ほふを銳えいむむ一切衆生いつせつしゆうじやうを海度かいど。再またび寂光じやくかうの都みやこへ回まらせ玉
 へま。さままま佛心ぶつしん満足まんじつしむしんん思おもふははは嬉うれしき限かぎなくく笑わらひはり。三ッさんふふもも如來にがひん
 本不生ほんふじやう不滅ふめつ乃御身ごみんか多おほくく前まへ小云せうい如ごと普ふく衆生しゆうじやうを化益けやくせんん汚穢おんじ不淨ふじやう乃
 人界じんがい小生せうじやうを托たく。今涅槃いまねはん不令ふらう。緒行無常じゆかうむじやう是生滅法ぜしやくめつほふ生滅じやくめつ々々已寂滅いじやくめつ為樂ゐらくの機
 を示し。菩薩羅漢ぼさつらかん四部しぶの大衆たいしゆうの佛法ぶつほふ心傳しんでん。未いまど不停とまず試ししし事ことの
 面白おもしろい笑わらひはり。迦葉かえつが鉄石心てつせきしん未煉みれんの怨歎うらたん小發狂せうはつきやうととたたわわるる。固かたリ天魔
 破やぶ旬しゆん惑まどささるる乃なもも猶なほも不審ふしんのいやと天てん小響せうきやう大音たいおんああ。弁舌べんぜつ流水りうすい乃
 如ごとく述のすす多おほく小阿難せうあなんを首くびとと萬億まんいふくの大衆たいしゆう百國ひやくこくの王おう民間みんかん賢愚けんぐ小せうととるる乃なももああと

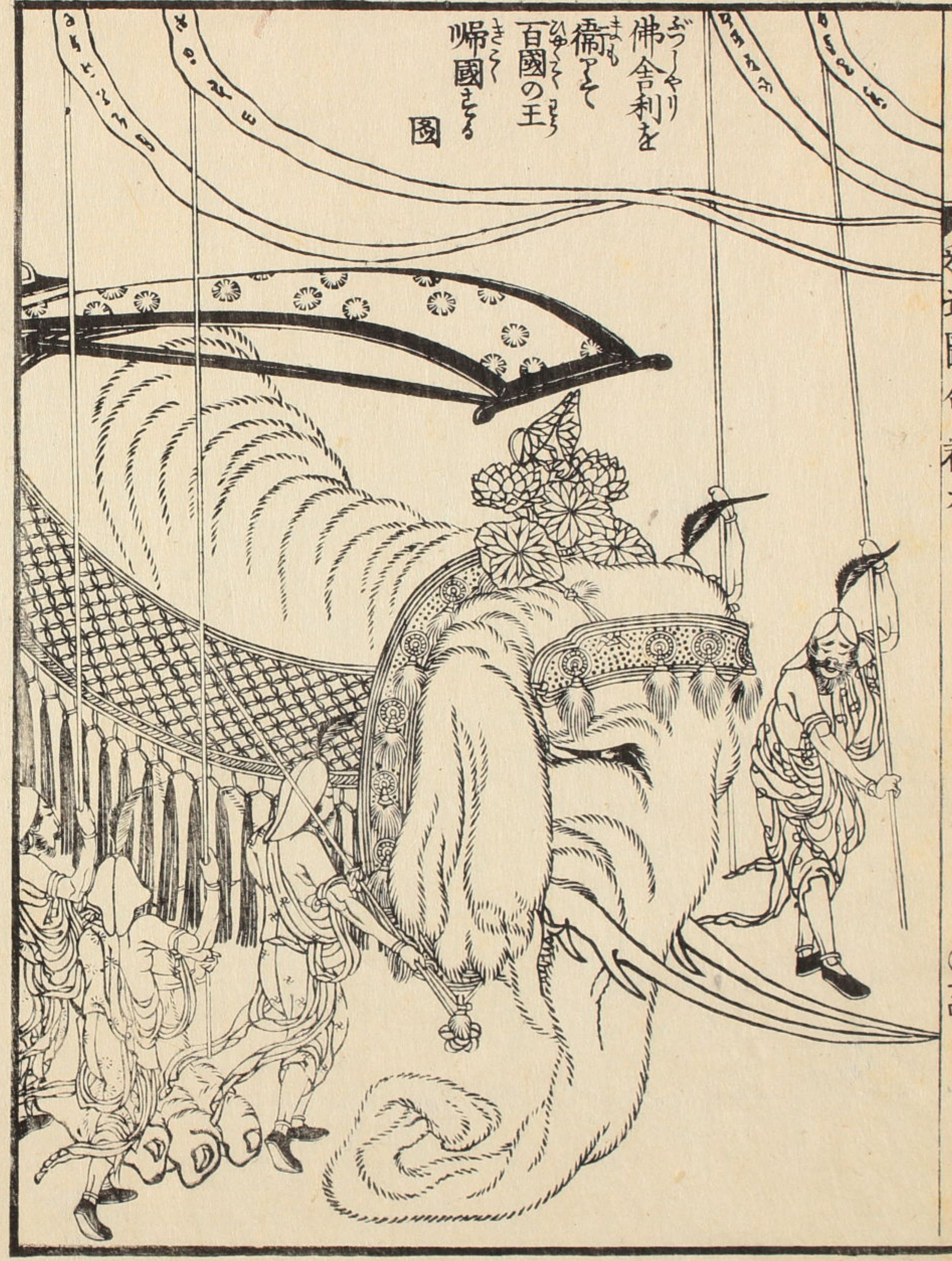
感かん。実まことも如來にがひん乃高弟かうてい滅後めつごの如來にがひんと仰おほるると曰いはひ。世尊せそんの金言きんげん宜なかりらしし
 各おの各おの讚歎さんたんししくく乃な時とき小迦葉せうかえつ阿難あなん對たい々々曰いは我緒羅漢がじゆらん後ごれれく如來涅槃にがひんねはん乃相
 好こうを拜かむむ乃な我われ小金棺せうきんくわんを閉とむむ乃な拜かむむ乃な望のぞむむ阿難あなん大だい小發せうはつ是こゝと
 小せうかろろけけ乃な御望ごぼう多おほく如來滅度にがひんめつどを挽ひむむ乃な已いま七しち日にち乃な徑けいいい乃な今いま法相ほふさう中ちゆう變へんり
 乃なつつ乃な此義このぎを思おもひひ止とむむ乃な固かたく辭かげげ肯かんんをを出いるる乃な不測ふそく乃な多おほく如來にがひんの金
 棺くわん自然じぜん開ひらく乃な金色きんしきの御手ごてを半はんして迦葉かえつを招まむむ乃な大衆たいしゆう大だい小發せうはつ乃な小せう悲ひ多
 や如來にがひん未いまく命終めいしゆうしむむ乃な多おほく乃な棺くわん小収せうめめ火かををけけ乃な一いつ更また乃な勿鉢ぶつ乃な多おほく
 身み乃な冷汗れいあせを流ながす乃な慚愧ざんき後悔ごかいを迦葉かえつ復またを耳みみ乃な多おほく乃な阿難あなんを引ひく乃な金棺
 乃側そばへ立寄たてより如來にがひんの法相ほふさうを拜かむむ乃な隨喜ずいきの泪なみだ乃な法衣ほふえの襟えりを沾ぬるる乃な其時そのとき佛左
 乃御手ごて乃な法衣ほふえと鉄鉢てつぱつ乃な執とつ乃な迦葉かえつ乃な付属ふたご乃な右みぎの御手ごて乃な袈裟けさと卧具ふしぐと
 把とつ阿難あなん乃な付属ふたご乃な西羅漢せいらん乃な是こゝを頂戴てうたい有ある乃な金棺きんくわん亦また自然じぜん開ひらく乃
 乃心こゝろ乃な大田たいでん相さうの金光きんかう輝ある乃な出いで繡蓋しゆうがいを照てす乃な野草やそう樹木じゆぼく盡つく乃な金きんの色いろ乃な緒

人光明照され、金棺を定ふ。又能く次小光明の裡に三冥土現れて
 金殿玉塔さる。凡そ其次小別光惣光も、妙来の智大自金小説て、梅檀の
 薪小燃えたり。烈然と燃上りぬ。其次小猛火自燃大鳳と変り、焰さる。鎮らむ
 其次小佛舍利出現と是を涅槃の五女神カとせり。不思議と云ふ。疎かり。諸
 羅漢大衆緒王貴賤も大奇特をなす。維く信心の獲するは皆金剛合掌
 異門音小南無佛と唱へ、恭敬礼拜を其後焰消煙鎮り、火
 氣の外小強く、近著斐然と。如斯こと七日七夜及び、大衆高繞り、
 今、大氣を鎮む。數百人跋大河の淨水を汲運び、灌とく。火氣愈熾
 かり。舍利弗堪も、大龍王小對ひ、你們雨を降り、火氣を鎮むと令り。心
 大龍王奉りぬ。恒沙の眷族と俱小跋提河小身を漫り、虚空小騰り、水
 捲風を發して大雨を降り。三日三夜大鳳小洒も、火氣以前小倍り、熾なり。各十
 針盡く絶すとる。方使かり。呆ると、忙然と。茲小帝釈天小兼て世尊と御契約

あり。當來作佛の結縁乃為。如來滅後乃佛舍利を南天乃鐵塔小収まわと
 願む。一更かれ。今入滅の時小臨り、其期を待たず。已小惣光の妙火發りてよ
 り七日七夜を徑り、今佛舍利を摺ひ納る。時節なり。飛行童子を以
 り七密乃靈塔を早來と母小右妃也。此玉塔小隨ひ、天降む。帝釈天脚
 悦喜限なく。右妃と俱小密塔を守護り。火鳳乃辺、降りむ。諸大衆百國乃
 王是ハ恐ある光臨とる。着を依恭敬礼拜を。此時、熾なり。火氣忽然
 涼風と変り、七密乃砂を生ず。金棺の跡小八色の佛舍利金剛の如く現れ
 たり。帝釈天も右妃も、感涙と俱小玉塔の裡佛舍利を摺ひ納め。飛行童子小
 昇り、己小天上へ昇り、四部の大衆百王貴賤大の小孩は是ハ如何なる
 御妻也。火氣の鎮む。七日七夜待ひ。何卒佛舍利を得。滅後の如來と拜
 せり。人爲なる小盡く摺ひ去り、情方れ可憐。位げを令らと玉へ。歎死
 愁とて願々。帝釈天衆人を顧む。愚なる者も願ひ。汝們信心深



佛舍利を
 衛す
 百國の王
 帰國する
 國



く心不飯命とて棺所を探りて佛舍利あり。妻猶無數を人朕が今掃くころの
 佛舍利。如来在世の昔より固く契約しあり。後佛出世の時節に。南天の鐵塔
 小納むるを人問の手採んと可すとて。袖我拂り昇天しむひたり。諸人天
 帝の紹命伏し。各心三密を祈念し。棺所を立りて見れば。実も天帝の勅命
 の如く。佛舍利玲瓏しく。猶數萬珠有るを。皆歡喜踊躍し。大衆及び百國の王
 八大竜王の如く。今ち戴たて本國に回り。各密塔を造り佛舍利を安置し。生
 身乃如来の如く。偈仰し。種々供養しあり。就中夕陽山の妙惠比丘尼。八
 乃入滅し。御慈歎限なく。阿難者。佛舍利一珠を得。玉塔を造りて是を
 納り。阿難を請招して佛舍利供養の爲。百日般若を勤し。阿難者。其信心を
 感し。如来智性摩訶般若舍利經を授られ。妙惠比丘尼深く。悦び朝夕小
 此經を讀誦し。信心堅固不行ひ。二年より。諸根を脱し。終小
 大往生の素懷を遂む。且亦如来御遺言の如く。迦葉と鷄足山の室に入

法我修し。舍利弗可難富樓那羅睺羅。六結園精舍に住し。阿難八伽利天正寺に住
 し。同連八象頭山。入各如来の妙經を説く。衆生を滿度し。其余の阿羅漢。諸
 國の靈場に住し。佛法弘通ある。皆彼八大龍王。佛舍利を得。歡喜限りなく
 是ぞ我五義三熱の苦患を救ひ。妙樂微妙の至密成道。乃勸具功德。乃如
 来なり。とて。偈仰し。龍宮城裡水晶塔を建。佛舍利を。菴朝暮圍繞來拜し
 たり。されば。釋尊乃功德八天上下。界まが。普く源遠く。未足並分り。中華日域。迄
 佛法傳り。三密不飯依。如来の妙法を修し。生老病死乃四大苦を脱し。極樂界
 小往生とて。者世々億萬の數を。信じて。尊む。と云

釋迦御一代圖會卷六大尾

明治十七年四月廿五日再版御届
同年五月十六日出版

著者 山田意叟齋

画工 葛飾北齋

原版主 大阪府平民 岡田茂兵衛

發行者 同 青木恒三郎

東區博勞町四丁目廿七番邸

和漢洋書籍出版所

發行者 大阪市東區博勞町四丁目廿六番屋敷 青木恒三郎

製本發賣所 大阪市心齋橋筋博勞町 嵩山堂本店

全 東京市日本橋區通壹丁目 嵩山堂支店

全 伊勢國三重郡四日市港堅町 嵩山堂分店

